

平成 30 年度(2018 年度)

日本特別活動学会 第 5 回 実践事例募集事業

推 奨 実 践 事 例

事例番号 5 - 3

学級目標達成大作戦

— 学級経営の充実を実現する自発的、自治的な活動の検討 —

新宿区立早稲田小学校 藤原寿幸

実践テーマ	学級目標達成大作戦！ — 「学級経営の充実」を実現する「自発的、自治的な活動」の検討
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 児童会・生徒会活動 クラブ活動 学校行事 その他具体的に、学級経営
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	<p>学習指導要領第 6 章特別活動第 3 の 1 の (3)には「学級活動における児童の自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、個々の児童についての理解を深め、教師と児童、児童相互の信頼関係を育み、学級経営の充実を図ること」とある。本実践では、学級目標を基盤として、学級活動と各活動や学校行事を相互に関連付けながら「学級経営の充実」を実現するための具体的な「自発的、自治的な活動」の展開の検討を行うことを目的とする。また、本実践は、昨年度筆者が本学会で推薦事例賞を受賞した「学級全員でつくろう 1 年間大切にできる学級目標」の続編とも捉えられる(昨年度は学級目標を「どのようにつくるか」、今年度はできた学級目標を「どのように運用するか」)。</p> <p>【参考文献】 藤原寿幸 2017 「活きる学級経営プラン」をたてる 児童心理 71(5) 金子書房 pp. 434-438 文部科学省 2018 小学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説 特別活動編 田中博之編著 2013 学級力向上プロジェクト 金子書房 【付記】本論文の一部は、早稲田大学大学院教職研究科紀要第 11 号(2019 年 3 月刊行予定)にて発表されている。</p>
実践の時期	平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

1. 【はじめに】

学習指導要領第6章特別活動第3の1の(3)には「学級活動における児童の自発的，自治的な活動を中心として，各活動と学校行事を相互に関連付けながら，個々の児童についての理解を深め，教師と児童，児童相互の信頼関係を育み，学級経営の充実を図ること」とある。「自発的，自治的な活動」とは，「目的をもって編成された集団において，児童が自ら課題を見だし，その解決方法などについて合意形成を図り，協力して目標を達成していくもの」(文部科学省，2018)である。本実践では，学級目標を基盤として，学級活動と各活動や学校行事を相互に関連付けながら「学級経営の充実」を実現するための具体的な「自発的，自治的な活動」の効果的な展開の検討を行うことを目的とする。

2. 【実践事例の概要】

I 学級目標の達成状況をアンケートによって「見える化」

4月に「よい学級ってどんな学級か」「どのような学級にしたいか」「どのような学級目標にしたいか」について全員が意見を書き，教室の床全体を使ったKJ法によって学級目標を作った。1学期は児童がそれを意識しながら生活できるよう，学習・生活両面において，指導の際は学級目標の文言等を積極的に活用した。その後，学級目標の達成状況を把握するためのアンケートを児童に相談しながら作成し，9月と12月と3月に実施することを確認した。アンケート結果は，レーダーチャートにして「見える化」した。アンケートとレーダーチャートの作成は「学級力向上プロジェクト」(田中，2013)を参考にした。

II 学級目標を意識した取り組み

9月，12月はアンケート結果が示されたレーダーチャートを見ながら，学級活動において「自分たちの学級ががんばっている(学級目標の)項目」と「これからよくしていきたい項目」について意見交流をし，それを受けて今後どのようにしていくかを話し合いをし，合意形成ができたところで，決定した活動を実施していった。「魂の運動会標語をつくろう」「学級キャラクターを考えよう」「学級ソングをつくって歌おう」などの活動を行った。

例えば，「魂の運動会標語をつくろう」は運動会に向けてのそれぞれの思いややる気を，標語としてイラストなどを添えて紙に書き，全員で発表し合うというものであるが，児童は特別な目標を掲げるのではなく，運動会も学級目標達成のための行事にしているという雰囲気であった。「えがお！みんなの運動会」「ゆうきをもってたちむかう」など，学級目標

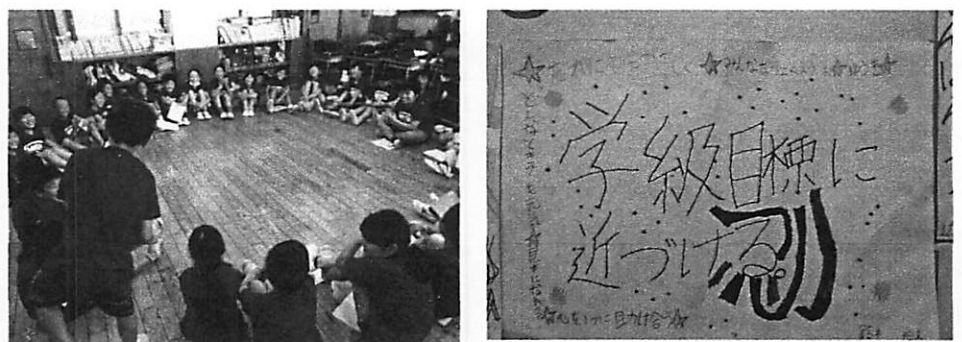


図1 魂の運動会標語

を強く意識した標語が発表された。一人が発表をし終わると、全員が自然に「オー！」と拳を天井に突き出し、とても盛り上がった。運動会当日は、標語を教室前面に掲示し、見て意欲が湧くようにした。

Ⅲ 学級目標達成に向けての作戦会議！—4年生に向けての3学期の取り組み—

3学期は大切にしてきた学級目標を達成できたかどうか問われる時期である。「学級目標達成のために自分たちでがんばった」と児童が実感できるように、学級目標達成に向けて学級全員で取り組みたいことをカードにイラストと文字で表現し、みんなの前でプレゼンテーションをする活動を行った。全員が自らの提案する活動の内容とそれを行うことにより「なぜ学級目標達成につながるか」を説明した。その後、学級会の話合いで合意形成を図り、実施する活動を決定し、順次実施した。カード作成からそれを決定する話合い、実際に活動を実施する過程は児童の自発性・自主性が大いに発揮された。

①学級キャラクターグッズをつくろう

2学期の「『学級キャラクター』を考えよう」で決まった、学級のマスコットキャラクターをもっと活躍させたい、もっと身近に感じたいという思いから提案されたA児のオリジナルアクションで、そのグッズをつくろうというもの。話合いの結果、葉に決定し、あとは全員が好きな色を塗り、マスコットが掛けているたすきに好きな言葉を書いて、ラミネートをしてリボンを付けた。実行委員を設け、実行委員が材料の準備や作り方の指示などを行った。自分の葉を持って、全員で記念撮影をした。



図2 全員で作ったしおり

②学級かるたをつくって遊ぼう

校庭が長期工事に入り、外でクラス遊びができなくなってしまう。そんなとき、室内でみんなで遊べないかということでB児から提案された活動である。学級目標を意識できることもあり、一石二鳥ということで実施された。実行委員が中心となり、学級児童全員に学級目標の文言とかるたの50音を振り分け、書き方のポイントなどを伝えた。作業はクラス全員で協力して行い、完成させた。3学期の「絆を強める会」では「学級かるた大会」を行い、大変盛り上がった。



図3 全員で作った「学級かるた」

③「このクラスでよかった」と思っていることを発表しよう

1年間の最後に、笑顔で終われるよう、「この学級でよかった」ということをテーマを決めて、書き表し、発表し合うというC児より提案された活動である。「みんなで決めた学級のキャラクター」「みんなで作った学級ソング」「えがおになれた！」など、様々な

テーマで全員が発表を行った。「私の一番の思い出は、みんなで学級目標を決めたことです。」「みんなのえ顔を見ると私のゆうきがわかります。みんなは学級目標たっせいするためにがんばっていて、わたしもがんばろうと思えました。」。全員の発表のあとは、達成感みたいなものが感じられた。発表用原稿は、学級の文集に全員文掲載した。

他にも「授業クイズをしよう」「学級目標に向けてがんばっている MVP を決めよう」「幼稚園の子たちと交流しよう」「3年生卒業カウントダウンをしよう」「3学期絆を強める会」などの児童から提案された活動を行った。

3. 【成果と課題】

3月末に書いたはがき新聞には「学級目標達成!」「みんなの絆も深まったし、3年生でやり残したことはないと思います。私は、学級目標を達成できてとてもうれしいです。」などの記述がみられた。ここには、学級目標達成に向けて学級のみみんなで自律的にがんばり、そして見事達成した喜びや次の

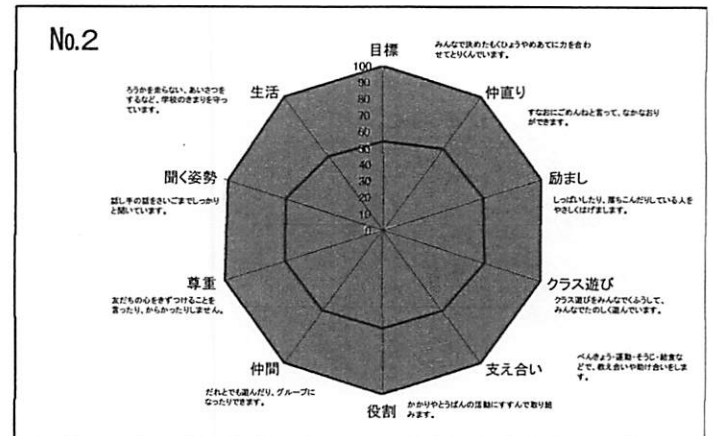


図4 9月(内側)と3月のアンケートの結果

学年への希望や期待が表現されていた。学級満足度調査 (QU) では、「学級生活満足群」に判定される児童は、6月が 74% (全国平均 41%)、12月が 96% (学級生活不満足群は 0%) となっており、児童の学級満足度高は有意に高まったことが客観的指標からも確認された。

本実践では、全員で納得して決めた学級目標は教室に掲示されたレーダーチャートによる「見える化」によって、あらゆる場面で、児童にも教師にも常に意識された。そのことにより学級目標は児童にとって「生きる学級目標」となり、様々な活動の計画や振り返りの際は学級目標について語られた。担任も「先生はこう思うから、こうしよう。」というより「みんなで決めた学級目標を大切にするには、どうしたらいいかな。」というように、学級目標を基盤とした指導・支援を意識した。3学期に児童が書いた文には「『自分たちでクラスのことを決めるんだよ!!』とわたしたちをささえてくれた〇〇先生、ありがとうございました。」という学級担任に向けた記述があったことから、児童の自律性の育ちが感じられ、自治的な学級集団の様相がみられた。そして、「学級目標達成に向けての作戦会議」を経て行った、児童考案の活動の際は、上でも述べた通り、児童の自発的・自治的な姿が多く観察され、学級目標が達成できたという成就感も得られた。

以上のように「学級目標の達成状況をアンケートによって『見える化』」、「学級目標を意識した取り組み」、「学級目標達成に向けての作戦会議」という視点から行われた本実践の一連の学習過程は、学級生活の中から課題を見だし、自主的に解決し、他者と協力して活動することの楽しさや成就感を体得できる「自発的、自治的活動」になったと考えられ、「学級経営の充実」を実現する「自発的、自治的な学習活動」の一例として提案できるのではないかと推察される。